

平成29年度 第2回学校評議員会 議事録

1 日時 平成30年2月22日(木) 15:00~16:30

2 場所 水沢高等学校 大会議室

3 出席者

○学校評議員

三浦弘子 福井柳 高梨拓  
高橋栄蔵 渡辺学

○教職員

校長 立花起一 副校長 吉川彰彦  
事務長 佐藤理 教務主任 千葉賢  
SSH主任 千田和則

4 次第

- (1) 開会 (2) 校長挨拶 (3) 平成29年度教育活動の総括  
(4) 協議 (5) 閉会

5 【質問や意見・感想等】

・卒業後地域から出て行く人が多い。地域産業の受け皿とのマッチングもあるかも知れないが、今後地域が衰退していくのが心配。地域に戻ることの指導というか、授業でそういうことを指導するというのは？→ 授業ではそのような指導はない。市役所などへ戻って働いている卒業生はいるが、思うような働き場は限られているのが現状。

・自分はたまたまこっちで仕事が見つかったが、生徒が望む仕事は少ないかも知れない。もしILCが決まるとかなり様々な職場ができる可能性はある。

・中学生向けのILCの出前授業を年間40日くらい行った。うまくいけば今年の夏くらいに方向性が出る。今の中学生が主役だと言って、中学生向けに授業をやっていると、興味をもつ子どもが少しずつ出てきている。このプロジェクトでは、スイスのセルンと同様、理系に限らず文理どちらでも活躍できる場が出来る。

・奥州市は毎年かなり人口が減っている。中学生が夢を持って将来戻ってきてほしい。

・奥州市の元気がなくなっていくのが気になる。大学を誘致すれば勉強するようになるかなんて思う。中学の勉強量が足りないの、高校3年間で頑張ってもなかなか難しいのはわかる。近くにライバル校がないからしょうがないが、どうやったら大学の合格率を高くできるか。SSHはすごいので、もっと宣伝して良い。携帯やスマホの使い方は心配だったが、上手に使っているようで安心した。

・自己評価で先生方の評価が厳しくなったのは人事異動で先生方が大きく変わったことが原因ということもあるかも。県内の中学校を訪問すると中学校によりいろいろな所がある。素敵な質問をしたり、素敵な発表をする学校もある。そうでない所もある。学校によるでこぼこを感じるし、同じ学校でも年によって変わる。先生方の異動で変わるのを実感する。

・自己評価の総括の中で水高生が受け身になっているというお話があったが、そういう子どもたちが増えているとすれば残念だ。昔と比べると水高はボーダーラインが下がったように感じるし、上位者も減っているかどうか気になる。推薦AOの指導はきめ細かにされていると伺ったが、一般入試やセンターに向けての指導はどうか。→ 一般入試に向けても、志望校や科目に応じてかなり細かく講座を開講して指導している。先生方は相当手をかけている。働き方改革が言われているが、時間外まで仕事をしている先生が多い。手を掛けてもいいが、高2から高3になる頃に自分で学習する形に持っていきたい。

・昔は、参考書等は自分で考えて用意したが、今は先生が用意してくれるから、与えられるものと思ってしまうのかも知れない。当てにしてしまっ、自主性が欠けるのかも。中学校の定着が不十分な所を高校でやらざるを得ないところがあると聞く。中学校で部活動をやりすぎの感がある。

・小学校3年生くらいからスポ少で家に帰るのが夜遅い。夜9時過ぎに家に帰る。ここ20年くらいはそんな感じになっている。寝不足の状態で脳が発達にするはずがない。スポ少に時間をかけ過ぎるのはどうか。頑張る親の子どもしか選手になれないようでエスカレートしがち。将来のことまで考えて子育てしてほしい。保育園で常に言っているが、子どもは、早く寝かせる。早く起こす。栄養をきちんと取らせる。友達と一杯遊ばせる。子どものやる気やガッツを育てる。基礎は幼稚園、保育園時代にできる。友達と競争しながらいろいろなことを一緒にやるという経験がとても大事。それが後々に効いてくる。

・部活と勉強との両立は大変である。部活に対する保護者の考えは、もっとやれという親がいる一方、そこまでやらなくても良いという親もいる。

・部の数が多いので、部員不足になっている部もある。人数が少なくても、どの部も一生懸命活動しているので、統廃合はなかなか難しい。

・文武両道が出来るように学校の体制は出来ているか。→ 放課後や朝も有効活用し、いい教材を選んで指導している。多くの運動部は3年生の6月で切替える。

・部活動に熱心すぎる保護者がいて、中には度がいきすぎているような方もいる。ネットに非難めいたことを書いたり、指導する先生をひどく書くような例もあると聞く。→ いろいろなご意見はあると思うが、現在大きな問題になっていることはない。

- ・生徒向けの講演会はどの程度やっているか。 → 生徒全員が毎年講演を聞く機会がある。SSHの予算もあり、他校よりも恵まれていると思う。
- ・どんな分野でも良いので、良い話ができる人の講演会で生徒に刺激を与えてほしい。OBには素晴らしいお話をできる人がきっといると思う。
- ・医者育てるといような研修はあるか。また、水高から医学科に何人合格したか。 → 今年は弘前大と岩手医大の2名。岩手医大の地域枠で合格すると県内に残って医者になる。医者志望の生徒が今年はあまり多くなかったが、医大の研修に参加したことが、医者志望の動機付けになるようなケースもある。医学部医学科は東大と並ぶほどの学力が必要。